

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 1日

事業所名 ことばの教室ことのは

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	0		
	2 職員の配置数は適切である	9	0	0	主に個別対応しているため、人員配置的には十分であると考えている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	2	3	急な階段であるが手すり設置。	ベランダの柵の高さに対策必要と感じており、近いうちに対策を予定。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	3	0		定期的に全体で話し合う機会を設定したい。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	1	毎年この自己評価を参考にしたり、保護者からの要望等を元に業務改善を試みている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	0	0	毎年事業所のホームページにて公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	1	1		
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	1	0	年間通しての独自の研修計画や新人スタッフに対する新人研修プログラムを策定している。またFCOの動画研修を取り入れたり外部の研修会に参加している。	テーマを職員間のコミュニケーション法など療育テーマ以外も学んでみたい。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	0	0	日常的な訓練や活動の申し送りの中でニーズ等を聞き取り、支援計画に反映させている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	1	入会時に発達スケールを使用し児童の発達を把握。またK式発達検査を必要に応じて使用し把握している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	4	3	2	利用児童の振り返りの中で、効果的な遊びについて話し合うこともある。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	1	0		
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	0	2	活動の設定を定期的なもので決めてなく、個別で子どもたちの興味関心等に応じて設定している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	1	0	個別活動を基本に小集団遊びから集団活動などに発展させて活動を行なっている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	2	0	必ずではないが、前日にデイリーを職員向けに周知し、各自で動きのイメージを把握してもらう。また、活動の振り返りの際に職員の役割について共有している。	
16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	0	0	職員間の振り返りを記録し、共有のLINEにアップし、休みの職員にも様子等を共有している。		
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	0	個別記録はSTが行っており、記録の時間もできるだけ確保し、記録漏れなどが内容チェックを別のスタッフで行なっている。		

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	1	0	モニタリング会議に参加、申し送りの中でニーズ把握、定期的な評価シートにて評価を行い、適宜個別支援計画の見直し作成を行なっている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	7	2	0		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0	0	基本は担当の言語聴覚士が会議に参加している。参加できない場合は、相談員にこの活動の様子などを情報提供書等を提出している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9	0	0	行事や下校時間等については、保護者とLINE等で連絡調整しており、学校との情報共有は児童の預かり時に適宜行い、事業所職員全体に共有を図っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	3	1		医療的ケア児がいないが、在籍している場合は保護者と基本連携をとりながら、必要に応じて主治医と連絡体制を整える予定。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	1	0	利用開始にあたって、関係者会議等に参加し、各機関等と顔合わせ、情報共有を行なっている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	3	0	情報提供書を作成し、次の支援事業所に情報提供を行なった。関係者会議等の参加を求められれば参加している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3	1	主に研修等に参加させてもらうが、助言や連携まではほとんどない。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	3	5	定期的な交流ではなく、公園等で偶然に交流の機会や状況であれば一緒に遊べるようサポートしている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	3	3	糸満市の協議会に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	0	利用日には対面、又はLINE等でその日の活動や訓練の様子を申し送りして、事業所と家庭又は学校の様子等を含め情報共有を行なっている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8	0	1	申し送りの際に保護者に対しペアレントの観点から関わり方のアドバイスや助言等を行なっている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	1	0	利用契約時にそれらの説明を行っており、変更等があれば適宜説明を行なっている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0	0	申し送りの際に保護者からの悩み等について、必要な助言等を行なっている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	3	5		当事業所では、保護者会等を行っていない。保護者にそのニーズがあるか聞いてみたいと思う。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	0	対面でご要望等のお話があれば、それに対し検討しご要望のご返答している。苦情があった際は迅速に対応し、その経緯等を会社全教室と共有している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	3	0	活動の様子や行事等については、教室のブログやLINE等でその様子を発信、共有している。	
	35	個人情報に十分注意している	9	0	0		

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	1	0	イラストや写真等を使い、理解できるよう工夫している。保護者については該当者がいない。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4	5	行事等への招待などは行っていないが、散歩等の活動で周辺住民に対し挨拶や子どもたちの活動の様子を話したりしている。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	3	0	各種マニュアルを策定し、所定の場所に設置し、職員はいつでも確認できるようにしている。また、適宜保護者に当教室の対応手順を説明している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	0	年に2度防火管理者立ち会いの下、避難訓練や通報訓練を中心に行なっている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	1	0	虐待防止研修会を実施したり、虐待防止委員会での協議内容等を職員へ伝達共有している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	1	2	やむを得ず身体拘束を行う場面が想定される児童については、個別支援計画に記載、また保護者に説明等を行なっている。該当児童はいない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	1	0	保護者よりアレルギーの有無を確認し、医師からの指示書を全職員で共有している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	0	事業所内だけでなく、全教室で事例を共有し事前防止、再発防止に役立てている。	件数が少ないという意見もあり、小さなヒヤリハットも記録し、小さな事故も未然に防げるようになっていきたい。